
輸送結果(集荷・バンニング、通関、コールドチェーン)

清水実証結果

通関手続き

- 既存で青果物を取扱っている、また、当実証の輸出商社と輸出手続きを行ったことがある海貨業者では無かった為、書類手続きが通常よりも時間を要した
- 京浜港対比で清水港の税関は輸出関連書類(インボイス等)の提出期限が早い
- 清水港の税関は、加工食品の成分分析表の提出、インボイスへのCAコンテナのスポンジ記載等、京浜港対比でチェックが細かく、差戻も発生しやすい

集荷・バンニング

- リパレタイズが発生したが、京浜港でもリパレタイズは行っており、清水港の倉庫と京浜港の倉庫とオペレーションにおける大きな差はない
- 当初の打ち合わせで決めていた搬入形態と、実際のオペレーションで求められた搬入形態が異なっており、追加作業・コストが発生した
 - 木製パレットでパレタイズ・搬入したが、清水の倉庫ではプラスチックパレットしか受けることが出来ず、積み替え作業とプラスチックパレットの購入が発生

コールドチェーン

- 清水港の倉庫では、集荷時とバンニング時にコールドチェーンが途切れるケースがある

清水実証結果

通関手続き

- 京浜港対比で清水港の税関は輸出関連書類(インボイス等)の提出期限が早い
- 清水港の税関は、加工食品の成分分析表の提出、インボイスへのCAコンテナのスポンジ記載等、京浜港対比でチェックが細かく、差戻も発生しやすい

集荷・バンニング

- 静岡VFにおけるバンニング・パレタイズ作業が不慣れであり、現地到着時の状態が懸念されたが、パレットや箱の崩れ・ずれは発生しなかった
- 静岡VFではプラスチックパレット・木製パレットの指定がなかった

コールドチェーン

- 現地倉庫についても、適切な冷蔵温度下にて保管
- バンニング作業も保冷下で実施でき、コールドチェーンが途切れることはない

拠点別調査検討④航路・空路が充実し、輸出貨物が 集中している地域(成田空港)

効率的な輸出物流の構築に向けた取組事項

「効率的な輸出物流の構築に関する意見交換会」にて、7項目の課題・取組事項を整理。①～③は一連の取組であり、最適な輸送ルート・輸送手段を選択し、大ロット化・混載促進を図るネットワーク構築こそが、効率的な輸出物流実現に向けた要諦。

一連の取組

特に空輸で課題視

①	輸送コストを踏まえた最適な輸送ルートの確立	<ul style="list-style-type: none">地方の港湾・空港を活用、陸上輸送にかかる時間とコストの短縮集荷・運送システムの構築に向けた定期ルートの構築 等
②	重点品目の産地を踏まえた大ロット化・混載の促進のための拠点確立	<ul style="list-style-type: none">拠点となる地方港湾・空港を選定し、大ロット化・混載の取組を推進物流拠点整備の必要性・実現性の検討 等
③	輸出産地・物流事業者・行政等が参加するネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none">産地・輸出事業者・物流事業者・行政が参画する協議会等の設置生産・出荷・物流に関する情報共有を行うプラットフォームの形成 等
④	コールドチェーンが途切れないよう施設・機器等、物流拠点の整備	<ul style="list-style-type: none">大ロットの集荷、コールドチェーン・トレーサビリティ確保、規制・規格の要求に対応した施設・機器の整備 等
⑤	鮮度保持・品質管理や物流効率化のための規格化・標準化	<ul style="list-style-type: none">輸送・保管に関する技術開発の推進輸出先国のニーズを踏まえた規格の制定、ブランディングの推進 等
⑥	検疫等の行政手続上の環境整備(DX化・ワンストップ化等)	<ul style="list-style-type: none">検疫等輸出手続きの円滑化・利便性向上等の推進 等
⑦	包装資材・保管技術の開発・実装	<ul style="list-style-type: none">「持続可能な開発目標(SDGs)」に配慮した包装資材や輸送・保管に関する技術開発の推進 等

航空輸出のニーズ

航空輸出はスピードや鮮度維持のニーズ、海上輸出はロット拡大等による、輸送コスト削減のニーズが高く、共通して輸出手続きの円滑化・効率化の課題認識もある。

実証すべき内容

食品輸出の課題に関する関係事業者の声

航空輸送
ニーズ高



輸送/保管時間
短縮による
高鮮度輸出・ブラン
ド化



商社

- ・ 鮮魚は多少コストをかけても鮮度維持を優先しており、中華圏だと水揚げから時間が短い程、高付加価値商品として販売可能(商社)
- ・ 賞味期限の短い乳製品等は現地到着後に棚における時間が限られてしまい、輸出を断念せざるを得ないケースがある(商社)

共通

手続き効率化・簡
素化による
手続き負担軽減



物流事業者
生産者

- ・ 物流面において最も大きい問題は、手続き等を含んだ物流の速度であり、輸出手続きの効率性の検討が必要(物流事業者)
- ・ 輸出先毎に規制や証明書・手続きが異なり、新規輸出のハードルが高い(生産者)



海上輸送
ニーズ高

大ロット/混載/ミ
ルクラン等による
輸送コスト減



商社
生産者

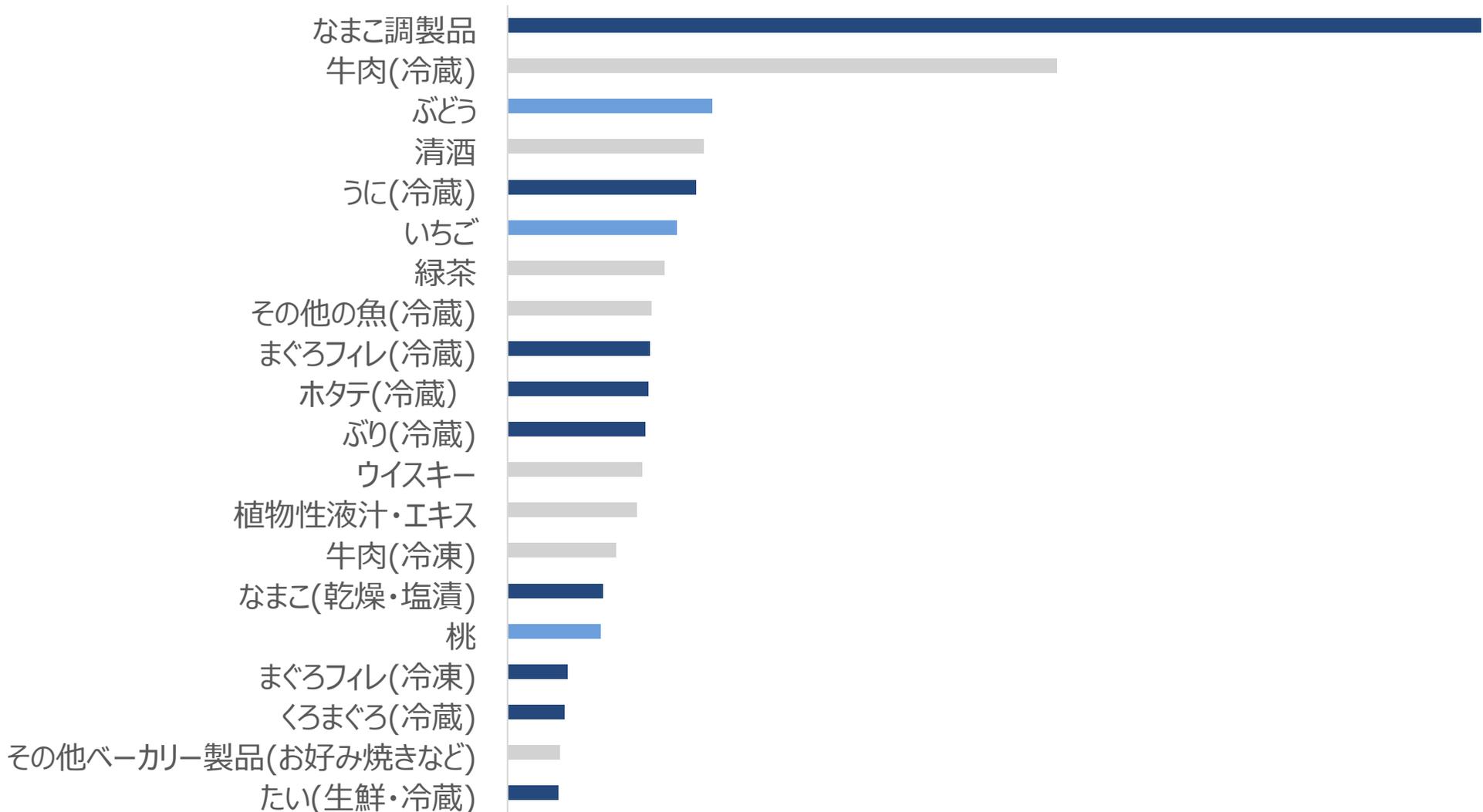
- ・ 他の事業者と連携して、ロットを拡大して、輸送コストを抑えたい(生産者等)
- ・ 混載で輸送コストを削減することが重要で、商社の混載機能の役割は大きく、必ずしも直接貿易が良いとは言えない(生産者)
- ・ 効率的なミルクランを実施することで、輸送コストの低減が可能(商社)

航空輸出額(2020年)

航空輸出の実証品目は、日本からの航空輸出が多い青果(ぶどう・いちご・もも)、水産(冷蔵の鮮魚・なまこ・うに・ほたて等)が有望か。

食料品の航空輸出額上位20

■ 青果 ■ 水産 ■ その他



成田空港・実証概要

航空輸出の強みを生かす、収穫から“短時間で鮮度高い輸出”を追求するべく、①水産は商流を直荷にすることによる時短、②青果物は物流・手続きをワンストップ化することによる時短可能性を検証した。

実証目的

水産
(マレーシア・金目鯛)

- 産地漁港魚市場の仲卸経由で輸出商社が仕入れた場合の輸送と品質保持状況を検証
 - 漁港から成田市場までの物の流れを確認し、輸送時間と品質の改善可能性を確認
 - 市場を介さない商流の継続性を検証
- 朝獲れ金目鯛・青魚等のニーズ・受け入れ価格帯の検証

青果
(台湾・シャイン)

- 成田市場を利用する際の運用・手続き面のメリット(検疫等のスケジュールの制約が小さい等)を可視化して、利点・課題 等を検証
- 青果物を成田市場に直接集荷する場合の、輸送時間・コスト・鮮度維持の利点を検証
- また、成田市場から輸出した際の現地の評価(青果物の状態等)を検証

青果
(香港・いちご)

- 成田市場を利用する際の運用・手続き面のメリット(証明書発行がスムーズ等)を可視化して、利点・課題 等を検証
- 成田市場から規制県産品を輸出した際の品質維持と現地ニーズを検証
- 成田市場と産地で放射性物質検査を実施、オペレーション・所要時間・品質維持を比較

放射性物質の検査対象

放射性物質の検査対象か否かで手続き時間が大きく変わるため、今回、放射性物質の検査対象となる国・品目と対象とならない国・品目でそれぞれ検証する見通し。

実証候補	台湾	香港	中国	その他
岩手	水産	—	全ての食品	—
宮城	水産	—	全ての食品	—
山形	— <small>規制なし実証候補:台湾向けシャイン</small>	—	全ての食品	—
福島	青果・水産	青果(禁止)・水産	全ての食品	—
群馬	青果・水産	青果・水産	全ての食品	—
栃木	青果・水産	青果・水産	全ての食品	—
茨城	青果・水産	青果・水産	全ての食品	—
千葉	青果・水産	青果・水産	全ての食品	— <small>規制なし実証候補:マレーシア向け</small>
埼玉	—	—	全ての食品	—
東京	—	—	全ての食品	—
長野	—	—	全ての食品	—

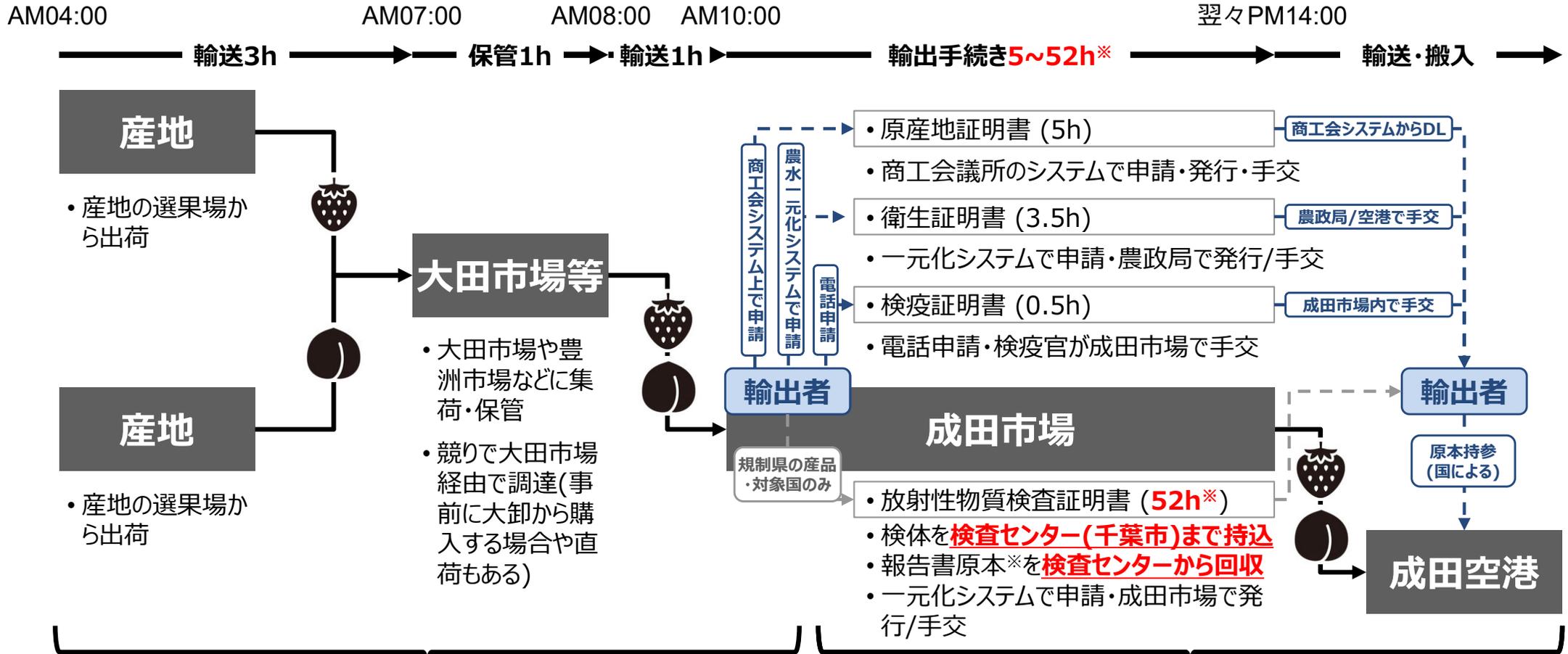
航空輸送有望果実の賞味期限

賞味期限が短い高単価果実を輸出した場合の現地の棚置き期間について、いちごや桃は4日程度しかなく、放射能規制がある輸出先や産地は、更に2日短くなる。

主な産地 (赤字は規制県)	賞味期限 (収穫後)	輸送時間	棚置き期間
いちご 福岡・栃木・茨城・静岡	5日	規制県以外：18h 規制県：66h	規制県以外：4日 規制県：2日
桃 山梨・長野・福島・山形・秋田	5日	規制県以外：18h 規制県：66h	規制県以外：4日 規制県：2日
ぶどう 山梨・長野・岡山・山形	7日	規制県以外：18h 規制県：66h	規制県以外：6日 規制県：4日
メロン 茨城・熊本・北海道・静岡	7～10日 ※追熟期間があるので、収穫タイミングで調整可能	規制県以外：18h 規制県：66h	7～10日

航空輸出の流れ・所要時間の実態とワンストップの目指すところ

航空輸出は“時短”が求められるところ、輸出手続きのワンストップ化で時短可能か検証。



モノのワンストップ化

- 市場便のコストメリットがあり、市場間の輸送が形成され、成田直接集荷は必ずしも合理的ではない
- 大ロット又は産地に近いケースは成田集荷あり得る

手続きのワンストップ化

- 2022年4月から運用する一元化システムで成田市場で/システム上で発行・手交できるケースが増えたが、放射性物質検査証明は手間が課題

※香港は放射性物質検査証明書(52時間)が必要、台湾は放射性物質検査報告書(28時間)が必要

成田ワンストップ・手続き別の課題

産地証明書

(特段の課題はない)

※商工会議所のシステム上で申請 & 発行が可能

衛生証明書

(特段の課題はない)

※輸出証明書発行システム上で申請し、成田市場に隣接する農政局の成田空港事務所で発行・手交が可能

検疫証明書

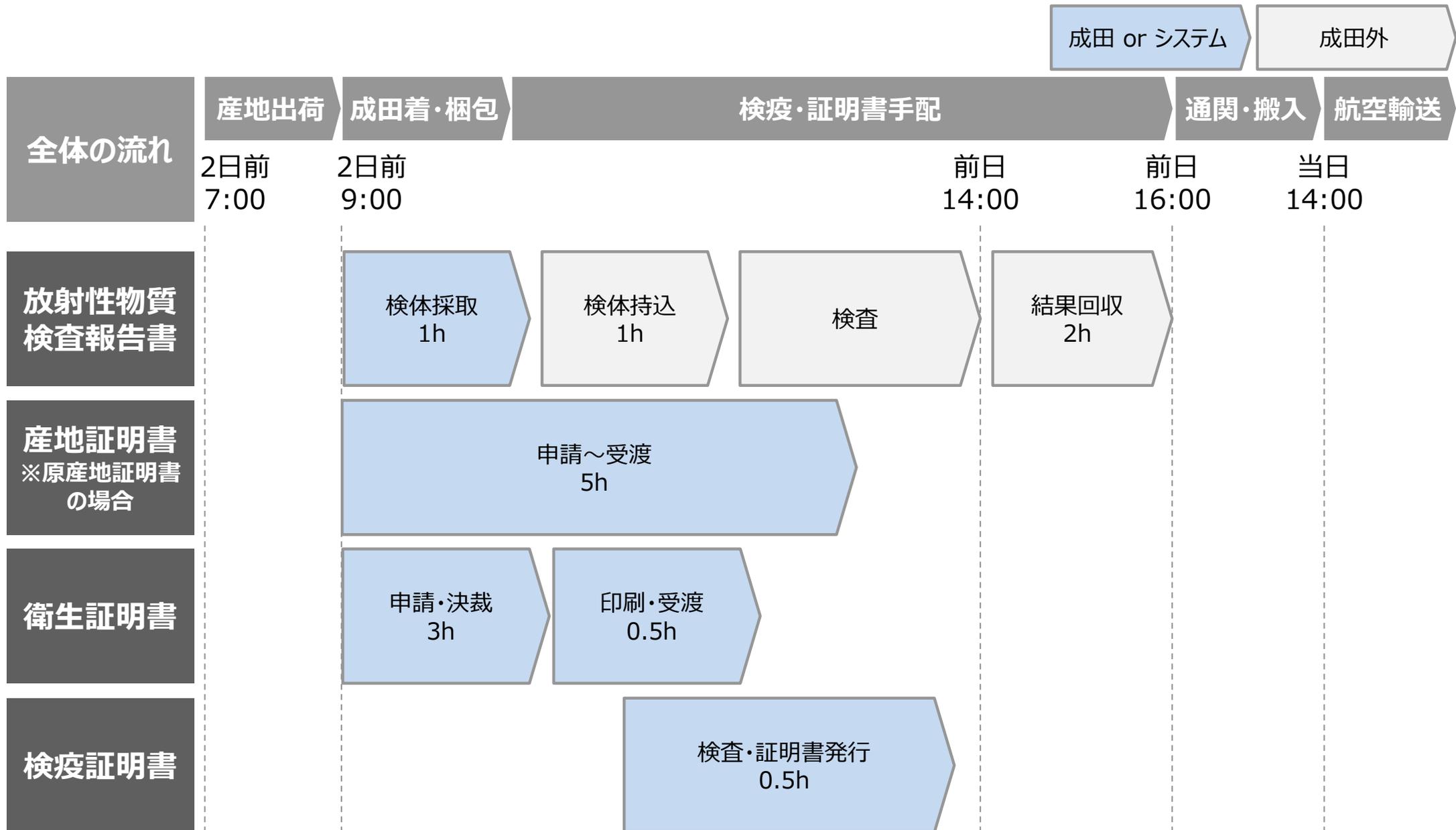
- 成田市場に午前午後1回ずつ (9時～18時) 予約時間に、検疫官が検査のため来訪し、その場で検疫証明書を手交している
- 検査時間がデイトタイムのみであるため、早朝便等に間に合わない

放射性物質 検査証明書 (報告書)

- 手続き時間のボトルネックとなっている
- 特に千葉市にある検査センターまで検体持ち込み、台湾向け輸出の場合は検査センターから報告書原本の回収が必要である

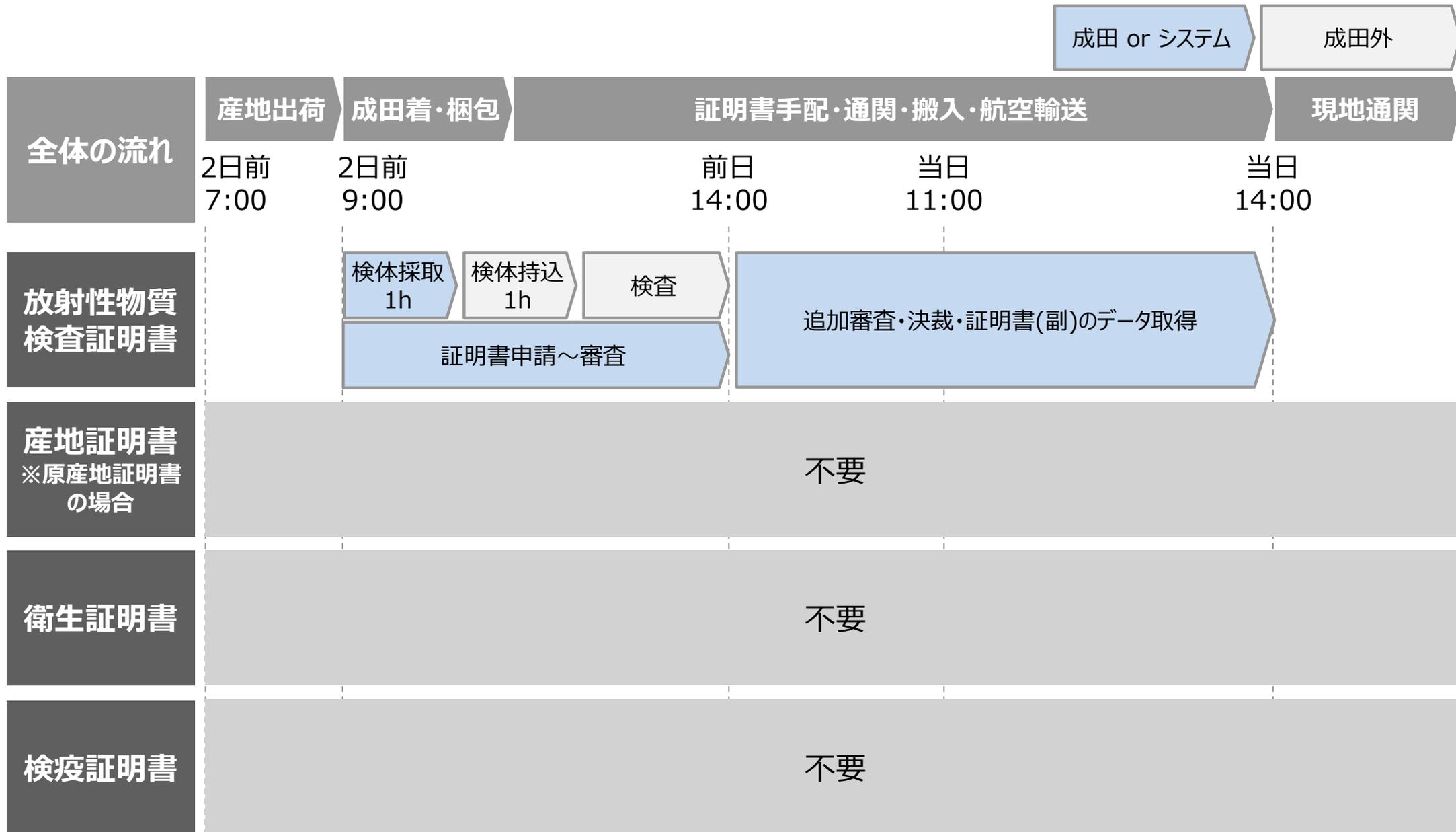
輸出証明書発行フロー ～台湾向け輸出に必要な輸出証明書

放射性物質検査証明書のみ成田ワンストップ[®]が実現出来ておらず、手配時間が長い。



輸出証明書発行フロー ～香港向け輸出に必要な輸出証明書

放射性物質検査証明書のみ成田ワンストップ[®]が実現出来ておらず、手配時間が長い。

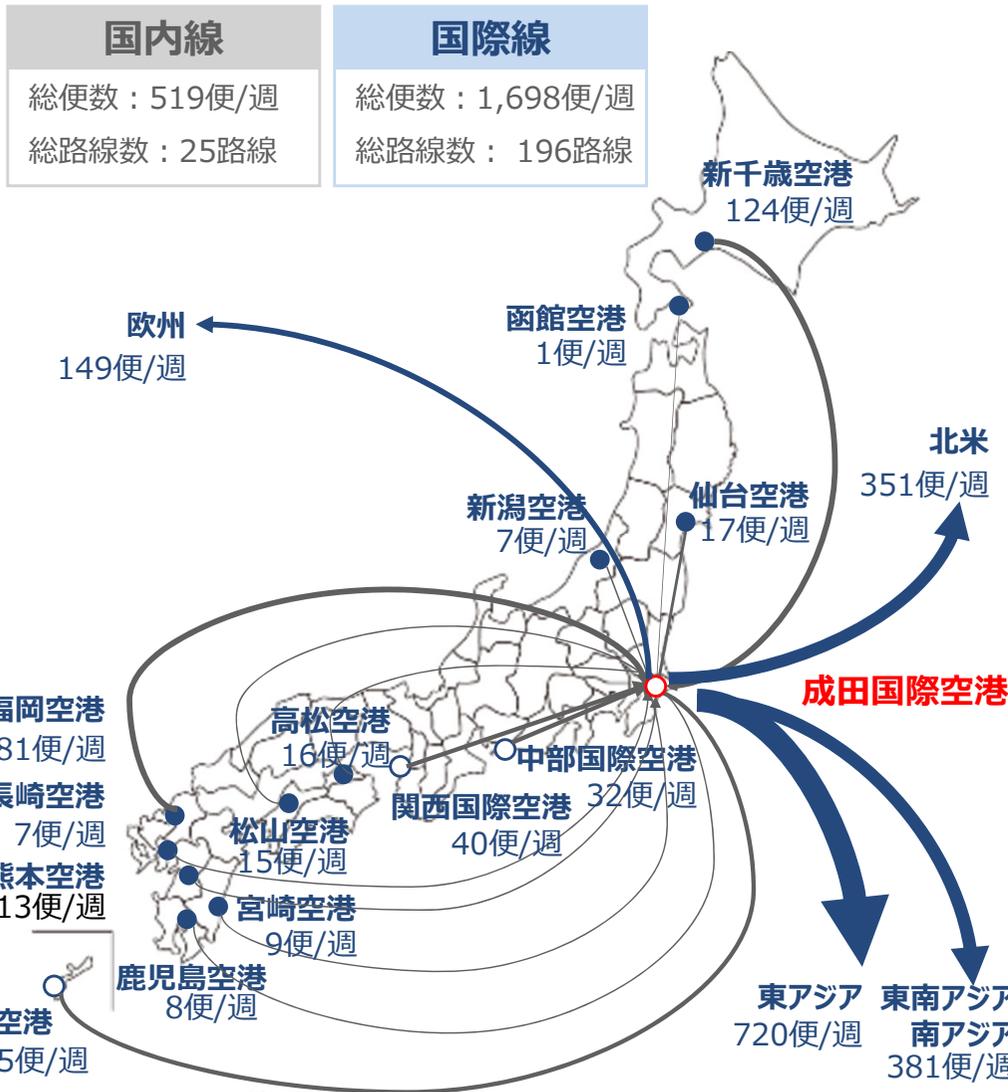


輸出拠点及び周辺環境調査

ハブ空港概要 ~成田国際空港

国際線が成田空港に集約されるコロナ禍にあって拠点として高い機能を持つ。ただし国内の航空ネットワークは乏しいため、東日本の域内集荷拠点としての役割を担う。

国際・地方路線ネットワーク(2019)



※2022年時点の情報

ハブ機能の現状と課題

主な農林水産輸出品目

- 調整食料品、真珠、こい(観賞用・活魚)、牛肉(冷蔵)、ウニ(冷蔵)、なまこ、まぐろフィレ等が多く、輸出先は多岐にわたる

空輸貨物アクセス

- 成田は国内路線数は多くなく地方空港からは、**那覇・新千歳・中部**から少量空輸
- コロナ禍で国際便が成田に集約されている間の横持ちは他空港と比べ最も多い

輸出ハブ機能の有望性

- コロナ禍では成田に国際便が集約されるなど輸出拠点としての素地を持つ
- 成田卸売市場を活用した輸出拠点整備の取組を行う等、農産品輸出にも積極的

ハブ機能としての課題

- 成田卸売市場の一層の活用及びコールドチェーンの構築等の市場の高機能化
- 国内線が少ないため陸上運送による東日本の域内拠点

空港における農林水産品の輸出上位品目 ~成田

成田国際空港からは多方面に輸出、牛肉、こい、真珠など高価格帯商品が多い。



成田

年間輸出額計 721億円 (2020)

■ 1億円/年以上

農林水産品\輸出先国	総計	大韓民国	中国	香港	台湾	シンガポール	タイ	ベトナム	マレーシア	北米	欧州
その他の調整食料品	408.7	18.6	22.0	299.1	11.3	2.1	2.2	26.8	0.8	10.7	3.8
牛肉(冷蔵)	27.1	0.0	0.0	8.5	5.2	3.3	0.2	0.2	0.7	4.8	3.1
こい(観賞用・活魚)	24.2	0.0	3.8	1.6	0.8	0.1	0.5	2.3	1.2	2.5	8.5
真珠	17.3	0.0	0.2	12.8	0.0	0.0	0.8	0.1	0.2	2.6	0.3
うに(冷蔵)	17.2	0.0	0.0	5.0	4.4	1.9	2.2	0.1	0.6	1.9	0.1
清酒	17.2	0.1	0.7	14.0	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
ウイスキー	17.1	0.0	13.7	0.0	0.4	0.2	0.0	1.1	0.1	1.3	0.1
なまこ調製品	13.5	0.0	0.1	12.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
播種用の種(園芸用草花)	12.4	0.0	5.4	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	0.0	4.8	0.3
まぐろフィレ(冷蔵)	11.2	0.0	0.0	2.6	1.9	1.5	2.4	0.5	0.8	0.8	0.1
植物性液汁・エキス	11.0	0.1	0.3	0.1	0.5	0.0	0.3	0.1	0.9	4.0	3.5
ぶどう	9.0	0.0	0.0	5.0	3.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の生きた哺乳類	8.5	3.7	2.1	0.5	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
播種用の種(野菜)	7.4	0.1	1.1	0.5	0.0	0.2	0.3	0.1	0.0	0.3	1.7
その他の魚(冷蔵)	7.1	0.0	0.0	1.3	1.0	0.3	1.0	0.0	0.1	2.7	0.0
なまこ(乾燥・塩漬)	6.7	0.0	0.5	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
緑茶	6.5	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	3.5	1.8
まぐろフィレ(冷凍)	6.2	0.0	0.0	2.7	0.3	1.1	0.2	0.1	0.1	0.2	1.0
紙巻たばこ	5.9	0.0	0.5	0.0	4.2	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
さんご類	5.3	0.0	0.2	4.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

輸出必要書類 ～台湾向け×水産物

台湾向け水産物輸出では、規制県7県以外は証明書不要で輸出が可能だが、規制県の場合、放射性物質検査証明書の発行に時間がかかり、鮮魚輸出のハードルとなる。

	対象商品	発行所要時間	発行手順
検疫証明書			不要
産地証明書	福島、茨城、栃木、群馬、千葉、岩手、宮城の産品	<ul style="list-style-type: none">通常1営業日最速申請日14時以降	<ul style="list-style-type: none">商工会議所の原産地証明書(都道府県名とMETIのリマーク入り)で代用可能原産地証明書は事前に登録書類の提出を行うことで、オンライン申請で電子発行可能
放射性物質検査報告書	福島、茨城、栃木、群馬、千葉、岩手、宮城の産品	<ul style="list-style-type: none">報告書は最速翌日24時間後発行	<ul style="list-style-type: none">検査官(第三者立ち合いも可)が検体採取検査センターに検体を持ち込み、検査を実施検査センターが検査報告書を発行
衛生証明書			原則不要 ※貝類と一部の活水産物で必要

輸出必要書類 ～台湾向け×青果物

台湾向け青果物輸出では、規制県5県以外は検疫検査のみで輸出が可能だが、規制県の場合、放射性物質検査証明書と産地証明書の手配も必要。

	対象商品	発行所要時間	発行手順
検疫証明書	<ul style="list-style-type: none"> 青果物全般 りんご、梨、桃、すももは特別条件 	<ul style="list-style-type: none"> 品目で異なる 葡萄は当日、イチゴは翌日 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫検査は基本的に植物防疫所の出張所・分室で行うが、集荷地での実施も可能 検査官が常駐しない場所での検査は、事前に防疫所に連絡を入れ、検査を実施
産地証明書	福島、茨城、栃木、群馬、千葉の産品	<ul style="list-style-type: none"> 通常1営業日 最速申請日14時以降 	<ul style="list-style-type: none"> 原産地証明書(都道府県名とMETIのリマーク入り)か、検疫証明書で代用可能 原産地証明書は事前に登録書類の提出を行うことで、オンライン申請で電子発行可能
放射性物質検査報告書	福島、茨城、栃木、群馬、千葉の産品	<ul style="list-style-type: none"> 報告書は最速翌日24時間後発行 	<ul style="list-style-type: none"> 検査官(第三者立ち合いも可)が検体採取 検査センターに検体を持ち込み、検査を実施 検査センターが検査報告書を発行
衛生証明書	不要		

輸出必要書類 ～香港向け×水産物

香港向け水産物輸出では、規制県5県以外は証明書不要で輸出が可能だが、規制県の場合、放射性物質検査証明書の発行に時間がかかり、鮮魚輸出のハードルとなる。

	対象商品	発行所要時間	発行手順
検疫証明書			不要
産地証明書			不要
放射性物質 検査証明書 ※原本不要	福島、茨城、栃木、 群馬、千葉の産品	<ul style="list-style-type: none">• 証明書は最速翌々日14時• (検査結果は最速24時間後)	<ul style="list-style-type: none">• 検査官(第三者立ち合いも可)が検体採取• 検査センターに検体を持ち込み、検査を実施• 検査結果を農政局に提出して、検査証明書を発行
輸出事業者 証明書 ※原本不要			不要

輸出必要書類 ～香港向け×青果物

香港向け青果物輸出では、規制県4県以外で特に必要な書類は無いが、規制県の場合、放射性物質検査証明書と輸出事業者証明書の手配が必要。

	対象商品	発行所要時間	発行手順
検疫証明書			不要
産地証明書			不要
放射性物質 検査証明書 ※原本不要	<ul style="list-style-type: none"> 茨城、栃木、群馬、千葉の産品 福島は輸入停止 	<ul style="list-style-type: none"> 証明書は最速翌々日14時 (検査結果は最速24時間後) 	<ul style="list-style-type: none"> 検査官(第三者立ち合いも可)が検体採取 検査センターに検体を持ち込み、検査を実施 検査結果を農政局に提出して、検査証明書を発行
輸出事業者 証明書 ※原本不要	<ul style="list-style-type: none"> 茨城、栃木、群馬、千葉の産品 福島は輸入停止 	<ul style="list-style-type: none"> 最速3時間 	<ul style="list-style-type: none"> 有効期限が1年間、輸出都度の手配は不要 現状、システムでの申請が出来ず、農政局での申請が必要 申請時に放射性物質検査結果が必要

水産物の放射性物質検査証明書 ～香港・台湾共通

放射性物質検査証明書は最速でも検査翌日の14時以降の発行であり、同一ロット検体の事前検査も水産物は出来ない為、鮮度が重要な規制県産品の輸出を難しくする。

検査所要時間

□ 最速で検査翌日14時

- 検査に加え、結果検証と承認作業の為、最速でも翌日14時以降の発行
- 自身で検体採取し、検査センターに持ち込むことで、発行までの時短が可能だが、検体採取に必要な立ち合い人の都合が影響



検査センター

- 放射性物質検査証明書の発行は通常オペレーションだと3営業日、最速で翌日
 - 自身で検体を検査センターに持ち込むことで最速発行になるが、立ち合い人の都合で検体回収・検査が遅れる可能性あり

水産品の同一ロットの定義が厳しい

放射性物質検査証明書発行フロー

- ① 検査申込と検体採取
- ② 検査を実施し、結果報告書を入手
- ③ 結果報告書を提出し、証明書を申請
 - ※ 同一ロット検体の結果報告書で申請可
 - ※ **同時水揚げ分のみ同一ロットと見做す**
- ④ 証明書発行

- 同一ロット検体の検査結果報告書を用いて検査証明書の発行が可能だが、水産物の同一ロットは同時水揚げ分に限定される
 - 水揚げ日前の証明書手配は不可能

香港×水産物の放射性物質検査証明書の申請時の提出書類

提出書類	注意事項
AWB	<ul style="list-style-type: none">• AWB/Invoice/パッキングリストを添付。この添付書類のいずれかに、以下情報が入っている必要があり、不足している場合は他書類(輸入許可通知書等)で補足が必要<ul style="list-style-type: none">➤ AWB・インボイスの番号➤ 商品名、数量、重量及び包装形態➤ 出発地名、到着地名、出港日及び船便名・航空便名➤ 輸出業者・輸入業者の名称及び所在地➤ 具体的な商品及びその産地
Invoice	
パッキングリスト	
漁獲証明書	<ul style="list-style-type: none">• 輸出する商品の漁獲から輸出商社までの各関係者間の取引の売買関係書類を添付する<ul style="list-style-type: none">➤ 例えば、商流が漁協→仲卸→輸出商社の場合は、漁協から漁獲証明書、漁協→仲卸と仲卸→輸出商社の販売証明書を添付
販売証明書	
営業許可証	<ul style="list-style-type: none">• 経由する全ての保管施設の営業許可証(放射性物質検査の検体採取、梱包作業を行う場所等が該当)を添付する
別記様式1 確認書	<ul style="list-style-type: none">• 既定フォーマットを使用して作成し、添付する• 放射性物質検査の検体採取に指定検査機関の担当が立ち会わない場合に必要
別記様式5 申告書	<ul style="list-style-type: none">• 既定フォーマットを使用して作成し、添付する

香港×青果物の放射性物質検査証明書の申請時の提出書類

提出書類	注意事項
AWB	<ul style="list-style-type: none">• AWB/Invoice/パッキングリストを添付。この添付書類のいずれかに、以下情報が入っている必要があり、不足している場合は他書類(輸入許可通知書等)で補足が必要<ul style="list-style-type: none">➤ AWB・インボイスの番号➤ 商品名、数量、重量及び包装形態➤ 出発地名、到着地名、出港日及び船便名・航空便名➤ 輸出業者・輸入業者の名称及び所在地➤ 具体的な商品及びその産地
Invoice	
パッキングリスト	
別記様式4 確認書	<ul style="list-style-type: none">• 既定フォーマットを使用して作成し、添付する
別記様式5 申告書	<ul style="list-style-type: none">• 既定フォーマットを使用して作成し、添付する

【参考】別記様式4確認書の記載内容

提出書類	記載事項
数量・重量 包装形態	<ul style="list-style-type: none">• Invoice、パッキングリストの内容
生産 加工施設	<ul style="list-style-type: none">• 検体採取場所の名称・所在地を記載(一般的には農協の情報を記載)<ul style="list-style-type: none">➤ 農作物が対象の場合、製造所固有番号は記載不要(N/Aと記載)
原料	<ul style="list-style-type: none">• 対象商品の名称・産地を記載<ul style="list-style-type: none">➤ 農作物が対象の場合、使用割合は記載不要(N/Aと記載)
生産・加工 年月日	<ul style="list-style-type: none">• 農作物が対象の場合、記載不要(N/Aと記載)
製造 ロット番号	<ul style="list-style-type: none">• 農作物が対象の場合、記載不要(N/Aと記載)
流通ルート	<ul style="list-style-type: none">• 香港向け輸出の場合、記載不要(N/Aと記載)
品種等	<ul style="list-style-type: none">• 対象商品の品種・圃場所在地・収穫期を記載<ul style="list-style-type: none">➤ 圃場所在地は農場所在地を記載
漁獲水域	<ul style="list-style-type: none">• 農作物が対象の場合、記載不要(N/Aと記載)

水産(マレーシア・金目鯛) : 課題の検証に向けた輸出 実証

ネットワークの流れ ～水産×成田の事例から見る示唆

本実証における各プレイヤーの段取り・求められた役割

新規取組のネットワークまでの段取り

商流・物流の当事者で悩みを共有

- 輸出商社と物流事業者で朝どれのブランディングと売り込み、価格転嫁を企画し、調達ルートを整える

現地の巻き込み・ニーズ刈取

- 輸出先を確定して、輸出先ニーズをヒアリング、現地のエンドユーザー向けの展開を検討(今回は、朝どれ・1日たった金目鯛で感触を伺う)
- さらに、レストラン側の意向を受けて2度目のチャレンジ、ニーズの高い朝どれ青魚等他の魚種も含めてサンプル輸送
 - 現地ニーズ・商談可能性のこじ開けまで持ち込む

実証実施・課題の可視化

- 供給側の課題として、安定的に朝どれ・直荷の鮮魚が調達できるわけではなく、朝にならないとわからない
- 市場が休場日の時に朝どれニーズが高く、休場日の安定確保策が必要
 - 休場日にも鮮度が高い魚の安定的に供給できる仕組みとして、活魚車による市場への安定供給・曜日関係ない仕入れ・輸出用出荷を提案

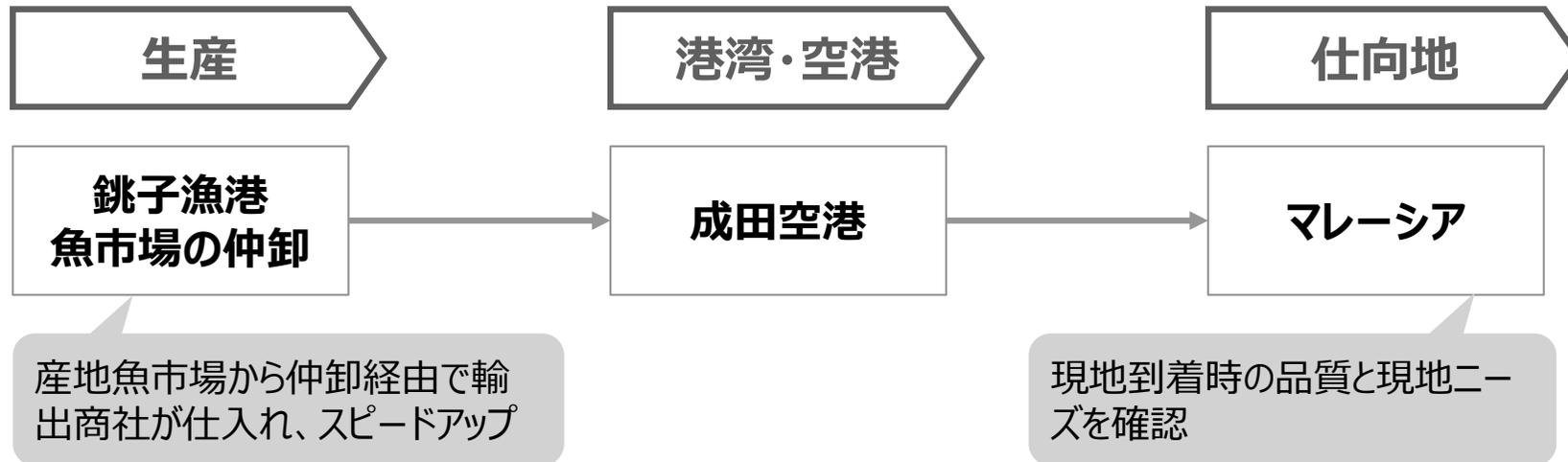
未解決課題の支援相談

- 上記を受けて協議、活魚で頻度高く成田市場に安定して白身魚などを供給・保持する運営と、水曜日の休場日にも活魚水槽から調達できる仕組み・連携体制を構築する(水曜担当を設ける等)



豊洲・成田市場を介さずに金目鯛をマレーシアに輸出し、輸送時間と品質状況を確認。

マレーシア向け水産物の航空輸送実証(成田空港)



実証概要

- 豊洲市場や成田市場を介さずに、輸出商社が銚子産金目鯛を産地魚市場の仲卸から仕入れて、マレーシア向けに輸出
 - 既存の市場経由の商流・物流と比較して、輸送時間・コストと鮮度維持面の差を検証
 - 輸出商品の到着時鮮度・現地反応を確認

検証ポイント・狙い

- 産地魚市場の仲卸経由で輸出商社が仕入れた場合の輸送と品質保持状況を検証
 - 漁港から成田市場までの物の流れを確認し、輸送時間と品質の改善可能性を確認
 - 市場を介さない商流の継続性を検証
- 朝獲れ金目鯛のニーズ・受け入れ価格帯の検証



- 銚子漁港から直荷で調達した金目鯛を、**成田空港**から**マレーシア**向けに輸出し、高級和食店・現地小売店にサンプル提供
- 需要側：総じて“朝どれ”をもって**価格転化は難しい**が、金目は同価格なら朝どれを選ぶ。**朝どれニーズが高い魚種**かつ現地の仕入れ困難な**木曜日**狙いでスポット的に市場獲得できる可能性あり
 - 朝どれの方が軽く・硬い(=新鮮)、焼き物の崩れが少ない、生臭くないと顧客からも好評
 - 顧客に魚を見せて選んでもらい提供するタイプの店舗の場合、特に金目鯛は**見た目**を重視
 - 現地では、市場が**休場日**の**水曜調達・木曜レストラン着**の調達が難しく、朝どれのスポット的な曜日ニーズが存在
 - ただし、金目鯛の見た目を気にする和食店は1店舗のみで、総じて、**カマス、のどぐろ、あじ、いわし、貝類**といった味に影響する魚種を求める
- 物流面では、店着時に**氷が溶けていた**という課題も存在、日本側での温度管理手段が求められる
- 供給側：総じて朝どれで成田から輸送すると供給量は限られ、漁港ごとに時間の不安定性があるため、銚子のみでなく**他の千葉の漁港**(鴨川等)も含めて調達できないリスクを減らす必要がある

→本実証で、第二弾として、「他の魚種」+「木曜日」+「調達元分散」として、鮮度を保持した“朝どれ”出荷で現地ニーズをとらえた実証として再送し朝どれ可能性を深掘



- **銚子・鴨川漁港**から直荷で調達したアジ・イワシ・タイ・ヒラメを、**成田空港**から**マレーシア**向けに輸出し、朝どれニーズの高い高級和食店にサンプル提供
- 需要側：総じて“朝どれ”をもって**価格転化は難しい**が、朝どれの品質の良さから、今後の調達を銚子・鴨川に切り替える可能性はある
 - 店舗により評価の高い魚種は異なるが、**顧客に魚を見せて販売**する店舗では**金目鯛**のように朝どれの色艶が活きる魚種、**刺身・寿司で青魚**を提供したい店舗にとっては鮮度が落ちやすい**イワシ・アジ・サバ**などの魚種を求める
 - また、**ヒラメ**は**活〆**した鴨川の方が評価が高かったことも踏まえると、**活〆による品質向上**とその安定供給方策も考えられる
 - **朝どれニーズが高い魚種**かつ現地の仕入れ困難な**木曜日**狙いでスポット的に市場獲得できる可能性あるが、朝どれ指定の場合は調達側の課題もある
 - 高潮で船の**出航有無**がわかるのは**前日夜**、さらに朝の**入船時間**がわかるのは**当日の朝 6 時頃**であるため、既にフライトキャンセル料金がかかってしまう時間帯である
 - このため、**活魚輸送 & 活〆**で特定魚種を**安定供給**しつつ、調達状況に応じて**朝どれ高級魚**を調達して輸出するという枠組みを現地側と相談しオペレーションしていくことが現実的か
- 物流面で、第 2 便では氷を多くしたため氷が溶けていたということにはなかったが、現地到着後に空港で常温～0 度以下の環境にさらされることがあり、より密閉度の高い梱包が必要と思われるか

調達状況 ~成田空港・水産輸出の実証結果 2便目



高潮で入港時間の変動が大きく、直荷で出荷する場合の時間制約(13:30に成田市場)に間に合わせるには6-7時台のセリ、遅くとも10時台のセリで調達する必要。

	魚種・荷量	漁獲状況	輸送時間	調達時連携
銚子	<ul style="list-style-type: none"> イワシ(各店舗2尾ずつ) ヒラメ(各店舗1尾ずつ) タイ(各店舗1尾ずつ) <p>※アジ、サバ、カマス、太刀魚は水揚げなし</p>	<p>輸出日当日は高潮で出航危ぶまれたが数船出航</p> <ul style="list-style-type: none"> イワシは8時に入船、9時に競り落とし完了 <ul style="list-style-type: none"> 5kg単位で購入 6時頃に入港時間がわかり判断可 ヒラメ・タイは7時に競り落とし完了 	<p>【時間計】</p> <ul style="list-style-type: none"> セリ~店着が約30時間 <p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> セリ落とし8時完了 銚子発10時半 成田着12時半 	<p>※目利きで鮮度の高い魚のみ調達し輸出</p>
鴨川	<ul style="list-style-type: none"> アジ(各店舗2尾ずつ) ヒラメ(各店舗1尾ずつ) タイ(各店舗1尾ずつ) <p>※イワシ、サバ、カマス、太刀魚は水揚げなし</p>	<ul style="list-style-type: none"> アジ・ヒラメ・タイともに7時に競り落とし完了 	<p>【時間計】</p> <ul style="list-style-type: none"> セリ~店着が約30時間 <p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> セリ落とし7時完了 鴨川発8時半 成田着12時 	<ul style="list-style-type: none"> 調達者；現地の仲卸

LINEでリアルタイムに連絡
 実証でない場合、オーダー量を調整する必要があり、複数漁港から直荷で調達する場合の連絡手段が課題

現地での品質評価



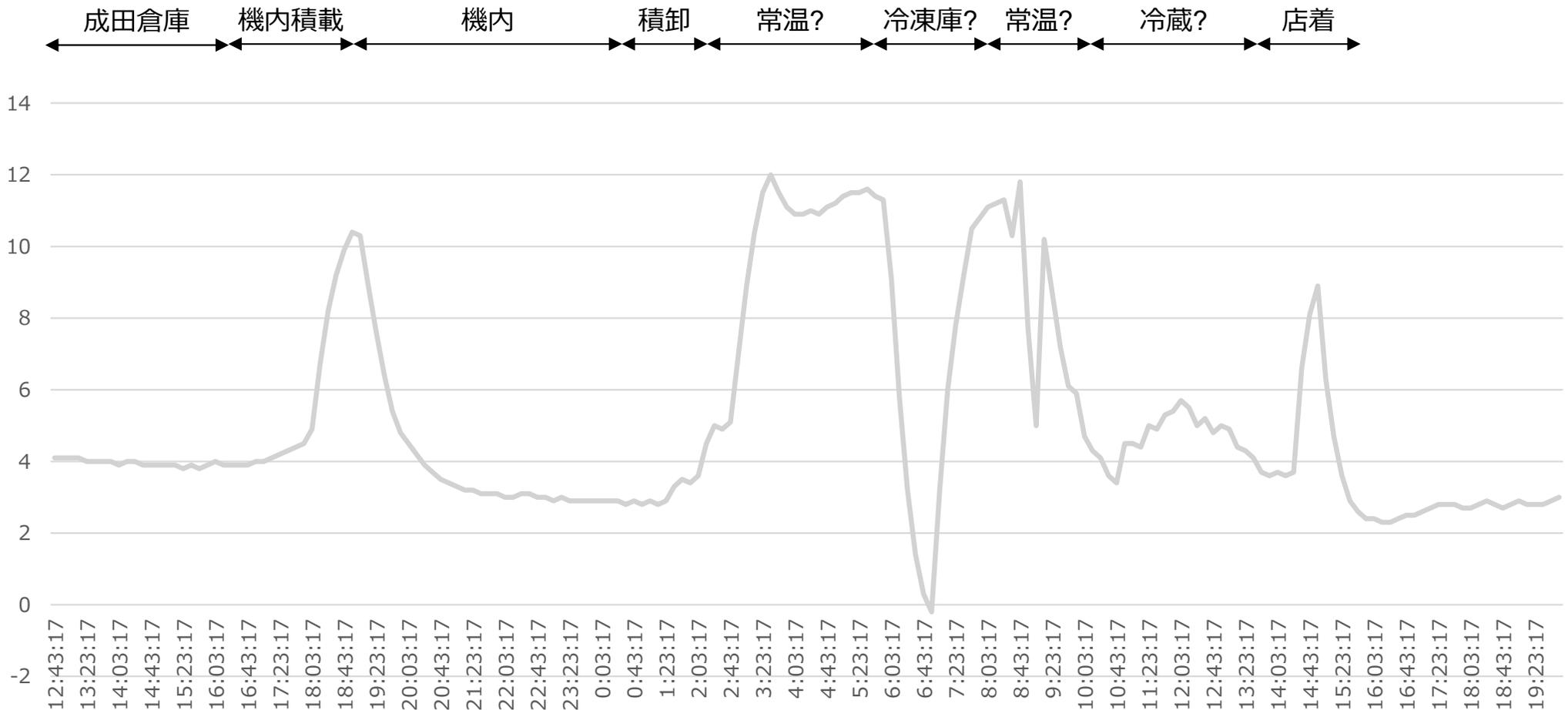
飲食店のタイプで、金目鯛・タイとイワシ・アジなどの青魚へニーズが分かれた。

	提供方法	第1便		第2便		
		金目鯛	タイ	ヒラメ	イワシ	アジ
飲食店A 高級すし 総合和食	魚を見せて顧客に選んでもらったうえで提供	朝どれの方が見た目・色艶良い	第二便の中で元も品質良かった。鮮度良くおいしかった	鮮度良く味がのっていた	やや鮮度が落ちていた印象	鮮度良く味がのっていた
飲食店B 高級すし	すし、刺身をお任せで	あまり朝どれの違いを感じない	提供方法が“お任せ”であるため、朝どれを訴求しにくく第2便未実施			
飲食店C アッパー居酒屋	さしみ	朝どれの方がえらの色がきれい、赤色も鮮やかで身の質感もよかった	身に甘みがありお客さんに好評	銚子・鴨川ともに高品質。銚子に比べ鴨川の弾力があり品質が良い	最も好評、マレーシアでこのレベルの鮮度の青魚は手に入らない	最も好評、マレーシアでこのレベルの鮮度の青魚は手に入らない



現地到着後、通関終了までの温度変化が大きく、より密閉環境での温度管理が必要か。

- 深夜1時~午前10時ころまでは常温から一時冷凍まで保管温度が上下、朝6時まではKL空港内倉庫で常温保管か
- 6時台に **1時間程度冷凍環境**にさらされており、**低温やけ**の懸念はある(第1便の一部凍結していたとのコメントはこの影響か)、7時以降は空港倉庫から引き取り、冷蔵車で移動、14時過ぎに店着している



成田空港・水産輸出 ～1便目



朝どれ・1日経過した銚子産金目鯛をそれぞれ5尾ずつ、サンプル輸出し、高級和食、すし店などに提供し意見聴取。

【サンプル輸出先】 高級和食店(A、B、C、D)、小売店E

- A：“朝どれ”を評価、店舗で魚を見せて捌くので見栄えが活きる、他の魚種に関心
- B：金目鯛については大きな差感じず、他の魚種(特に貝類)で木曜便であれば有望
- C：見た目が良い点は評価、鮮度求められる青魚(アジ、サバ、イワシ)であれば有望
- D：実入りが良くないという評価
- E：見た目もよく総じて関心はあるが、量・安定供給が困難か

梱包

朝どれ

1日経過





シェフからすると見た目・質感における違いは明らかだが、一般の消費者が朝どれと1日経過の魚の品質差に気づくことは、並べて比較しないと難しい。

現地到着時の様子



各店の品質評価

- 一般の消費者が朝どれと1日経過の魚の違いに気づくことは、比較でもしないと難しい(全店)
- 朝どれの方が身が綺麗で、生臭さも少なかった。焼き物にした際の身崩れも起こりにくかった(A)
- 刺身にすると、見た目に差がある(B)
- 身の質感、真っ赤な色、特にエラの色に差があった(C)
- 到着時の保存状態が良くなかった。味がさっぱりしており、現地で求められる脂っぽさが足りなかった(D)

朝どれ現地ニーズまとめ ~マレーシア1便目



総じて価格転化は難しいが、同価格なら朝どれを選ぶ、朝どれのニーズが高い魚種を選定し、現地の仕入れ困難な木曜日を狙いスポット的に市場を獲得できる可能性あり。

	朝どれ/1日経過比較	価格転化・取扱可能性	提供方法	他魚種ニーズ
飲食店A 高級すし 総合和食	<ul style="list-style-type: none">朝どれの方が軽く、硬い朝どれの方が焼き物の崩れが少ない朝どれの方が生臭くないと顧客からも好評	<ul style="list-style-type: none">取扱量増加は可能性有	<ul style="list-style-type: none">魚を見せて顧客に選んでもらったうえで提供	<ul style="list-style-type: none">鮮魚全般鮮度保持が必要な魚で、カマス、サバ (焼き物にするから関係ない)、のどぐろが朝どれニーズあり
飲食店B 高級すし	<ul style="list-style-type: none">外見の違いないが、さばいた後のための違いはあり	<ul style="list-style-type: none">価格転化は困難木曜・土曜に鮮度が必要な魚種を持ち込めれば取扱い可能性有	<ul style="list-style-type: none">すし刺身	<ul style="list-style-type: none">貝類の方が鮮度が求められる
飲食店C アップー居 酒屋	<ul style="list-style-type: none">朝どれの方がえらの色がきれい、赤色も鮮やかで、身の質感もよかった	<ul style="list-style-type: none">価格転化は困難だが、同価格帯ならこちらを選ぶ	<ul style="list-style-type: none">さしみ(見た目で差がつく) (あぶる場合は1日経過したもののほうが良い、煮つけは冷凍で可)	<ul style="list-style-type: none">青魚のニーズが高い特に、アジ、サバ、イワシ

銚子の金目鯛の物流ルート・経過時間 ~1便目



本実証では銚子から成田までセリもスムーズで渋滞もなく、時間通りに輸出できたが、安定した時間に安定供給、成田市場までの陸送手段に課題がみられる。

銚子漁港・第三卸売市場から成田市場発までの一連のモノの流れ



- 9:30水揚げされたトラックが漁港着
- 10:00にセリ開始
- 10:20セリ落とし
- 10:30パックして出荷
- 12:05成田市場着
- 12:30輸出用再梱包、重量計測
- 12:35流通業者に引き渡し

金目鯛では9:30が通常
他の魚種・以下はこの日は13:00~開場

セリ開始後に少し経過してから色艶の良い金目を調達(若手がのる船の方が総じて品質が良い)

概ね**20-30分**でセリ落とし、日によっては**1時間以上**かかることも

漁港すぐ10分程度で値付け・パッキング

成田市場には高速道路利用で約**1.5時間**
定期便がないため実証でなければ**宅急便**等か

今回は野締めのみなので梱包のみで30分以内に完了

隣接する倉庫に引き渡し

物流面の課題 ~1便目



マレーシア向けの便が、調達側からしても、受け側からしてもやや時間帯が早い可能性あり、日によっては漁獲・セリ時間帯があわず、安定して朝どれを供給しにくい点がネック。

日本側

現地側

陸送手段

- 直荷で銚子から成田市場に向けては、既存便がないので、直荷で継続して輸出する場合は宅急便等の利用をするのが現実的

• -

航空便の時間帯

- 夜発の方が現実的であるが、成田は17:00が最終のため、日によらず安定して供給することが難しい可能性有
- 逆に夜便は羽田発のマレーシア航空があるため、マレーシア向けであれば羽田発の方が出荷の安定性は見込める

• -

コールドチェーン

- 水揚げ後、船体ですぐに野締めして、セリの直前に専用機でサイズ選別を行う際のみ一時外気にさらされる(30分程度)
- その後、成田からの発送までコールドチェーンが途切れることはない

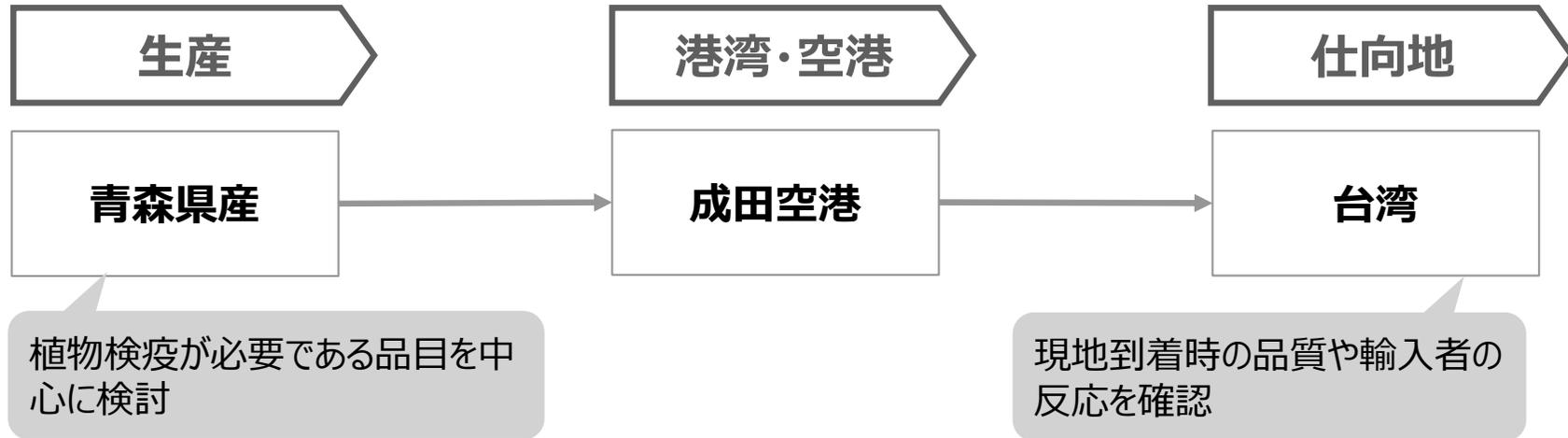
- 氷が解けてしまっていたので輸入側で到着後すぐに氷を入れ替えるべきとの指摘有
- 逆に航空機内の温度帯のせい、一部凍結している様子、データロガーで温度管理必要との指摘有

青果(台湾・シャインマスカット) : 課題の検証に向けた 輸出実証



青森産シャインマスカットの台湾向け輸出を行い、成田市場の利点を確認。

青森産シャインマスカットの台湾向け航空輸送実証



実証概要

- 10月中旬に集荷・輸出手続における成田市場の活用メリットを検証する目的とし、青森・長野産シャインマスカットの輸出実証を行う
 - 初めて青森県産シャインマスカットを取扱い、台湾向け輸出の継続性を検証
 - 大田市場を介さずに、産地から成田市場に直送した場合の輸送時間・コスト・鮮度維持について検証

検証ポイント・狙い

- 成田市場を利用する際の**運用・手続き面のメリット(検査等のスケジュールの制約が小さい等)**を可視化して、利点・課題 等を検証
- 青果物を成田市場に直接集荷して輸出する場合の、**輸送時間・コスト・鮮度維持**の利点を検証
- また、成田市場から輸出した際の**現地の評価**(青果物の状態等)を検証

成田市場活用に向けた方向性 ～台湾青果



- 成田空港はフライト時間が制限され(深夜・早朝便が飛ばない)、検疫時間も他の官公庁舎同様の8時スタートとなっている為、国内リードタイムを短縮できても全体の輸送時間の短縮が困難
 - 10/16 AM(弘前創造地方卸売市場入荷)
 - 10/16 13:00～10/17 0:00(弘前総合地方卸売市場～成田市場)
 - 10/17 0:00～6:00 ※**検疫時間に合わせて、待機時間が発生**
 - 10/17 6:00～8:00(貨物の検品・選定・梱包・パレットへの積み付け)
 - 10/17 10:30～11:00(**検疫**)
 - 10/17 12:30(成田空港通関)
 - 10/17 14:00(航空会社搬入)
- 一方、**大田市場経由**の成田市場輸送では、大田市場での留め置きが発生し、直近2-3年ではトラックが直ぐに手配できずに**3時間待ち**になるケースも増えている為、出荷時間帯によっては産地から成田市場に直送することで**国内輸送時間の短縮**や**当日遅延リスク軽減**はある程度期待できる
 - **検疫・フライト時間制限の緩和**に向けた取組と、**産地から成田市場への直接輸送**により、全体の輸送時間を短縮し、より鮮度の高い商品を海外に提供することが可能になる
 - また、積み替えを1回減らせるので、**温度変化**や**振動**による商品の**鮮度低下リスク**を避けられる
 - 産地側に留めておいた方が品質維持に有利な品目については、国内輸送費を短縮することで、産地にギリギリまで留めて置き、産地から成田市場へ直接輸送し、直ぐに航空便で輸送することで、寄り鮮度の高い商品を海外に提供することが可能になる
- なお、大田市場経由と成田市場直送で国内物流コストについて大きな差はない



実証結果

輸送コスト/ 輸送時間

- 成田直送と大田市場経由で国内輸送コストに大きな差は無かった
- 検疫・フライト時間がボトルネックとなり、成田直送で国内輸送時間を短縮しても、全輸送時間は大田市場経由と変わらない
 - 青森産地から台湾現地空港で荷受け可能になるまで1日半～2日程度

鮮度保持

- 現地到着時に脱粒は一切確認されず、梱包・中身の状態についても懸念点は無かった
- 大田経由と弘前からの直送の比較でも、輸送ルートの違いによる品質の違いはなかった
 - 温度変化を防ぐことがぶどうの品質維持において重要だが、既存の大田経由では経路地の大田市場での温度変化は防げるので、直送と比較して鮮度が落ちることはない

輸出手続き

- 青森産と長野産の検疫を纏めて実施したが、分けて実施する場合と工数や時間で大きな変化は無かった
- 弘前から成田市場直送(青森産)と大田市場経由(長野産)で輸出手続きオペレーションに差はなく、今回初めて取扱った青森産シャインマスカット特有のオペレーションもなかった

今後の課題・ 展望

- 青森産シャインマスカットの現地評判は良好で、輸送費を加味しても収益率は十分であり、今後も継続的に弘果から今回の物流・商流で輸出を続ける

実証結果 ～輸送スケジュール



検疫時間が固定な為、国内輸送時間短縮によるトータル輸送時間への影響は限定的。

輸送時間合計

- **1日半～2日**：産地発～台湾空港受取り
 - 12時間半：成田市場着～成田空港通関
 - 22時間半：成田市場着～台湾現地空港到着

産地- 集荷地点 国内輸送

- 10/16 AM(弘前総合地方卸売市場入荷)
- 10/16 13:00～10/17 0:00(弘前総合地方卸売市場～成田市場)
- 10/17 **0:00～6:00** ※**検疫時間に合わせて、待機時間が発生**

輸出手続き

- 10/17 6:00～8:00(貨物の検品・選定・梱包・パレットへの積み付け)
- 10/17 10:30～11:00(検疫)
- 10/17 12:30(成田空港通関)
- 10/17 14:00(航空会社搬入)

航空輸送～ 現地到着

- 10/17 18:20(成田空港発)
- 10/17 21:30(台湾桃園国際空港着) ※台湾時間
- 10/17 24:00(台湾通関許可) ※台湾時間



集荷・梱包 パレタイズ

- 大田経由分(長野産)は大田市場で、青森産は成田市場で梱包・パレタイズ・バンドかけまで実施したが、大田・成田市場のオペレーションはいずれも既存オペレーションと変わらなかった
- 大田市場だと市場関係者に作業を依頼、成田市場だと輸出商社自社で作業を実施し、既存のアセットを使って対応可能

通関・検疫

- 検疫検査官は成田に常駐しているが、検疫時間は8時開始で固定され、行政との交渉の余地もない
- 成田空港は内陸部に位置することから、深夜・早朝フライトもなく、それに対応する形で検疫実施時間も関西国際空港等と比較して限定的となっている

コールドチェーン 鮮度保持

- シャインマスカットは温度変化に弱い品目なので、輸送中の温度変化を防ぐことが重要だが、今回の実証で温度変化の発生は生じず、現地到着時の品質にも問題は無かった
- 大田経由分(長野産)も大田市場では常温に常に置くことで温度変化の発生を防いだ

取引継続性

- 現地ニーズ：品質・概観・糖度の評価が高く、青森産の希少性もあり、現地ニーズは十分
- 現地相場：青森産の販売価格は、知名度のある岡山産よりは安価で販売
- 継続可能性：現地評価が高く、輸送コストを加味しても採算は十分。来年分は既に受注済

青果(香港・イチゴ) : 課題の検証に向けた輸出実証

成田市場活用に向けた方向性 ～香港青果（放射性物質検査に関する検証）

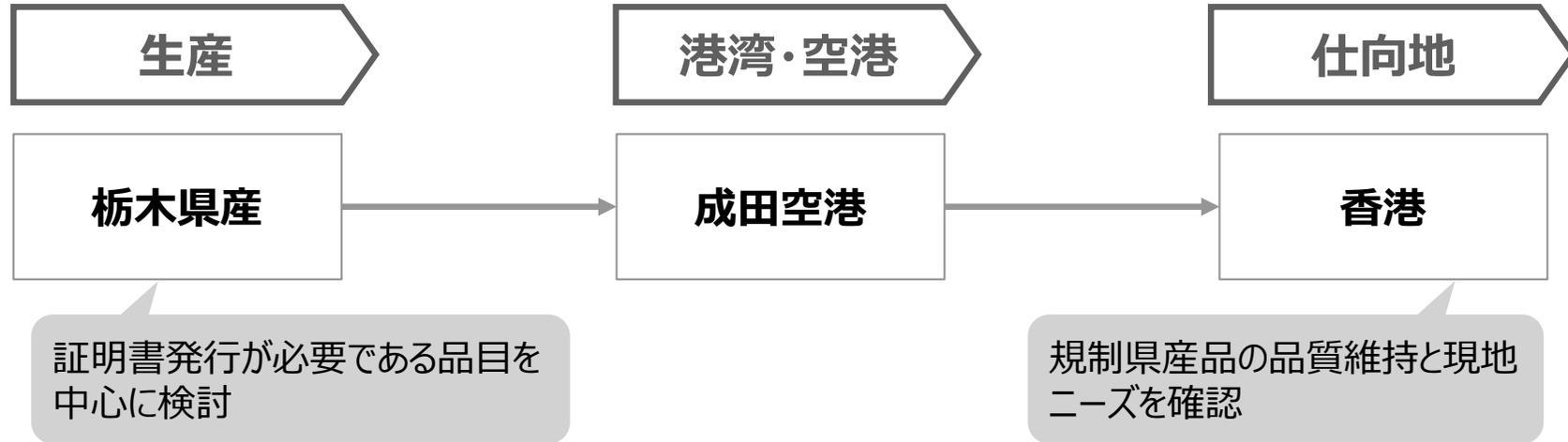


- 成田市場の活用のテーマとして、**放射性物質検査が必要なケース**(台湾・香港向け、千葉・栃木・福島・群馬・茨城 等の青果物)で放射性物質検査を成田市場で行うことが、鮮度保持・コストの面でメリットがあるかを実証目的とした
 - 香港向けでは産地で検査をした方が検査にかかる**コストが低く**、収穫前に**同一とみなせるサンプル(同一圃場・同一品目)**で**事前に放射性物質検査**に出すことにより、輸出品についての収穫から現地店着までの**時間短縮**もできる
 - ※香港輸入税関の解釈で同一の圃場であれば同一ロットとみなすことができ、事前検査が可能
 - 一方、台湾向けでは、**同時に収穫された商品を検査する必要**があるため、事前検査による時間短縮ができないため時短メリットがなく、時短・鮮度保持というメリットがないのであれば、産地からすると**成田市場に商品・検査サンプル一度に送付するほうが効率的**といえる
- 成田市場の手続きのワンストップ化の一環として放射性物質検査の体制を整備し運用を定型化することにより、**産地検査を実施できない/実施したがない**(産地の圃場リストの提出が必要等、手間がかかる)**ケース**に対応できれば、今回の迅速な**検査体制**が成田の青果物輸出の**チャームポイント**の一つとなりうるか
 - 今後、成田市場での放射性物質検査の実施二ーズが高ければ、放射性物質検査フォローチームを成田市場で発足させ、市場内検査のフォローから、産地側での検査対応までフォローまで出来る体制を組めると良い



規制県産青果物を香港輸出し、輸出フローの可視化と規制県産品の可能性を確認。

香港向け青果物の航空輸送実証(成田空港)



実証概要

- 集荷・輸出手続きの成田市場の活用メリットを検証する目的で青果物の輸出実証を行う
 - 輸出手続きのワンストップ化によって、輸出所要時間が短縮され、規制県産青果物の輸出の可能性が拡大
 - 香港に栃木産イチゴを輸出し、成田空港の規制県産青果物輸出の可能性を確認

検証ポイント・狙い

- 成田市場を利用する際の**運用・手続き面のメリット(証明書発行がスムーズ等)**を可視化して、利点・課題 等を検証
- 成田市場から規制県産品を輸出した際の品質維持と現地ニーズを検証
- 成田市場と産地で放射性物質検査を実施し、オペレーション・所要時間・品質維持を比較検証

【再掲】輸出必要書類 ～香港向け×青果物



香港向け青果物輸出では、規制県4県以外で特に必要な書類は無いが、規制県の場合、放射性物質検査証明書と輸出事業者証明書の手配が必要。

	対象商品	発行所要時間	発行手順
検疫証明書			不要
産地証明書			不要
放射性物質 検査証明書 ※原本不要	<ul style="list-style-type: none">茨城、栃木、群馬、千葉の産品福島は輸入停止	<ul style="list-style-type: none">証明書は最速翌々日14時(検査結果は最速24時間後)	<ul style="list-style-type: none">検査官(第三者立ち合いも可)が検体採取検査センターに検体を持ち込み、検査を実施検査結果を提出して、検査証明書を発行
輸出事業者 証明書 ※原本不要	<ul style="list-style-type: none">茨城、栃木、群馬、千葉の産品福島は輸入停止	<ul style="list-style-type: none">最速3時間	<ul style="list-style-type: none">有効期限が1年間であり、輸出都度の手配は不要現状、システムでの申請が出来ず、農政局での申請が必要



実証結果

輸送コスト/ 輸送時間

- 産地検査のケースと成田市場検査のケースの比較で、産地検査が35,000円割安(国内輸送費と検査センターの検査費が割安)で、商品出荷から現地受取のリードタイムも2日短い
- 大田市場×羽田空港と成田市場×成田空港の市場検査の比較では、成田市場×成田空港の市場検査の方がマックス2日程度現地到着までの時間が短い

鮮度保持

- イチゴについて、成田市場検査のオペレーションだと店頭で最低2日間は並べることが可能
 - 取扱は厳しい為、成田市場検査を実施する場合は、イチゴ以外の品目とする
- 産地検査のオペレーションであれば、店頭で最低4日間は並べることが可能
 - イチゴの場合は、産地検査を必須条件とする

放射性物質 検査証明書

- 放射性物質検査の検体採取については、成田空港の貨物地区には既存で検体採取ルートがあるため、成田市場は検体採取依頼がしやすい
- 一般的に検査センターはサンプル送付依頼が多く、検体採取ルートを活用できる成田市場においても、午前10時頃のタイミングに合わないと、検体採取を依頼できない

今後の課題・ 展望

- 産地側で検査対応が可能な場合は産地検査を推奨
- 産地側での検査対応が困難な場合は、成田市場の放射性物質検査体制(成田市場放射性物質検査フォローチームの発足等)を有効活用して、規制県産品の輸出拡大を図る

実証結果 ~市場検査の場合の所要時間 羽田空港 vs 成田空港



大田市場→羽田空港(市場検査) ※予想

成田市場→成田空港(市場検査)

輸送時間 合計

•3日~5日

•75時間

国内輸送

•4時間

➢ 産地~大田市場

•4時間※1

➢ 12/21 5時※1(検体採取)

➢ 12/21 9時※1(成田市場着)

放射性物質 検査証明書 取得

•2日~4日

➢ 数時間~1日: 検体採取・発送

➢ 1~2日: 検査開始~結果取得

➢ 1日: 証明書発行

•50時間

➢ 12/21 10時(検体採取)

➢ 12/21 12時(検査センター着※2)

➢ 12/22 14時半(検査結果発表)

➢ 12/23 12時(検査証明書発行)

航空輸送 ~現地受取

•1日

➢ 香港通関前日までに検査証明書が必要な為、放射性物質検査証明書発行日(航空便発日)の翌日受取

•24時間

➢ 12/23 9時半(成田発)

➢ 12/23 13時半(香港着)

➢ 12/24 AM(香港通関)

※1 実証本番は遅延が発生したので、想定で記載

※2 千葉の今回の実証に参加した検査センターでの検査実施を想定

実証結果 ~放射性物質検査証明書発行スケジュール 成田市場検査パターン



成田市場で検査する場合、産地発～現地受取までの所要時間は4～4.5日程度。

	時間	場所	
	商品出荷 12/19		
放射性物質検査	入荷	12/20 13:00 ※当日の検体採取に間に合わず	成田市場
	検体採取	12/21 10:00 ※1日遅れ	成田市場
	検査～ 結果発表	12/21 PM ~12/22 14:39 ※1日遅れ	千葉県の検査センター
証明書	申請	12/20 PM(一次申請) 12/22 16:00 (本申請) ※1日遅れ	輸出証明書発給システム
	交付	12/23 12:00 ※1日遅れ	成田市場
	輸出 12/23 9:22		
	現地着 12/23 13:35		
	現地受取 12/24 AM ※半日遅れ		

4.5日
(4日)

実証結果 ～放射性物質検査証明書発行スケジュール 産地検査パターン



産地で予め検査する場合、産地発～現地受取までの所要時間は1.5～2日程度。

		時間	場所
放射性物質検査	検体採取	12/8	栃木県
	検体輸送	12/8～12/9	-
	検査～結果発表	12/11～12/16 16:55	東京の検査センター
証明書	申請	12/19 PM (本申請)	輸出証明書発給システム
	交付	12/21 AM	成田市場
		商品出荷 12/22 AM	
		輸出 12/23 9:22	
		現地着 12/23 13:35	
		現地受取 12/24 AM ※半日遅れ	

↑
2日
(1.5日)
↓



集荷・梱包

- 集荷・梱包で特筆事項は無かった
 - 放射性物質検査が加わることで、特にオペレーションに変化はない
 - 放射性物質検査の検体採取のタイミングで一旦、バンド切断・張り直しが発生

通関

- 証明書取得の追加以外は、オペレーションに差はない
- 現地通関において、放射性物質検査証明書を前日までに手配する必要がある

コールドチェーン 鮮度保持

- 検体採取は冷蔵庫で実施したので、コールドチェーンは問題ない

取組の方向性

- 香港向け青果物は、同一圃場×品種を同一ロットと見做し、放射性物質検査結果を6か月使い回すことが可能であり、シーズン始めに輸出予定の圃場×品種は予め検査しておくべき
- 産地検査が出来るケースにおいては、コスト面・時間面から産地検査を推奨
- 一方、産地検査をやりたがらない産地(産地の圃場リストの提出が必要等、手間がかかる為)については、成田市場で検査を実施し、成田空港から輸出出来ると良い
 - 放射性物質検査フォローチームを成田市場で発足させ、市場内検査のフォローから、産地側での検査対応までフォローまで出来ると良い